

10/27 開催 第1回 議員意見交換会からの報告

Point 1 ー自由に意見が言える場所へー

情報の共有化と認識の共通化

【議員意見交換会等の定期開催】

これまで全員協議会等の場を通じて、様々な情報を共有してきた。他方、議員経験の多寡により、同じ情報でも受け取り方に差異が生じていたことも事実。16人の過半数が2期以下となった今期の議員構成にとって「自由討議」の機会を増やすことは重要である。

Point 2 ー「個」の議員×16=「全」の議会へー

議員の資質向上と一体感のある議会

【調査研究や研修機会の確保】

これまで常任委員会・会派・個人など、単位は別にしても相応に学ぶ機会は確保してきた。他方、議会の活性化・改革を図る上で必要な知識・技術に特化した研修は皆無。多様化する住民ニーズに「即応する議会」の構築は急務である。

Point 3 ー常任・議会運営・議会広報発行に係る各委員会の充実へー

委員会の機能強化と発展的な取組

総務
常任委員会

テーマ
公民共創による持続可能な公共施設の利活用

目的
学校跡地の利活用による行政コストの削減と町民サービスの維持向上に資するため

厚生文教
常任委員会

テーマ
ライフステージに応じた「スポーツ機会の創造」と「健康づくりに資する環境整備」

目的
生涯にわたりスポーツに親しむことで得られる健康増進から「医療・介護に係る費用負担の減少」と「町民の健康長寿」に資するため

先進地視察先 長野県飯綱町（総務・厚生文教・議会運営）佐久市（経済建設）

経済建設
常任委員会

テーマ
地域に根差した特色ある魅力的な商店街の取組と小川町駅周辺の活性化

目的
町内における消費の喚起と拡大から「地元経済の再興」と「町全体の活性化」に資するため

議会運営
委員会

テーマ
「進み続ける議会」と「施策を後押しする政策提言」の在り方

目的
住民ニーズと時代に見合った議会の活性化による議員の資質向上に資するため

全員で踏み出す一歩



改革・活性化の歩み (平成18年以降)

2006 平成18年12月 定数削減20人→16人

2018 平成30年7月 議長から議会運営委員会に「人口規模に見合った議員数の検討」について諮問

議員研修会
「地方議員の定数問題と議会改革の在り方」
講師：専修大学法学部 小林弘和教授

2019 平成31年3月 議会運営委員会から議長に「人口規模3万人において住民サービスを十分に提供するためには議員数16人が妥当である」と答申

2020 令和2年5月 「コロナ禍にある議会の在り方」を模索

一般質問の時間短縮(75分→60分)・議案質疑の事前通告制など

2023 令和5年10月 「議会の活性化」を日途とした「議員意見交換会」の定期開催を決定

「議会改革」が叫ばれて久しい。多くの町民が期待する「議会改革」を短期間で実現することは容易ではない。しかし、今夏の選挙で町民から負託を受けた16人は、徹底的に議論し、情報の共有化を図る。また、議会改革については、合意できることから具体的に手続を踏み実施していく。今後、議員間討議の状況を見える化し、町民の皆さんに示していきたい。（発行責任者）

特集3

新シリーズ

16人の一歩!
活性化に向けた進み続ける議会



一部の行政サービスを複数の市町村が共同で行うための団体が一部事務組合です。構成市町村の議会から議員を選出しています。

ごみ処理・し尿処理

小川地区衛生組合議会 (令和5年8月7日)

バイオガスプラント施設の見学会を開催

令和4年度一般会計の歳出決算は13億2100万円で、小川町の負担額は約4億6300万円となりました。「可燃ごみ処理の民間委託」の初年度は、寄居バイオガスプラント施設の「軽微な故障」や「ばや」に見舞われ、スムーズな処理（発酵）が進まなかつた期間もありました。住民対象に同施設の見学会等も適宜開催していますので、ともに事業の進捗をチェックしていきましょう。